

授業科目名	先端基盤医学方法論		
科目責任者	あいざわ ひでのり 相澤 秀紀	所属	神経生物学 (内線 5115)
		メール	haizawa@hiroshima-u.ac.jp
科目 コーディネーター	あいざわ ひでのり 相澤 秀紀	所属	神経生物学 (内線 5115)
		メール	haizawa@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義と演習		
概要	最新の研究成果のプレゼンテーションや議論を通して、先端的な医科学研究の基盤となる基礎・社会医学の研究方法を習得する。		
講義ユニットの 到達目標	<p>1) 筋・骨格系の形態形成 (発生生物学による方法論、青山教授)</p> <p>2) 精神疾患の病態 (神経科学による方法論、相澤教授)</p> <p>3) 心臓血管系の発生・再生の病態 (分子生物学による疾患研究のメカニズム、口野教授)</p> <p>4) 神経回路の活動と発達 (神経生理学による方法論、橋本教授)</p> <p>5) 細胞小器官と病態 (細胞生物学・生化学による方法論、今泉教授)</p> <p>6) 糖脂質代謝と病態 (細胞生物学・生化学による方法論、浅野教授)</p> <p>7) 神経難病と治療薬開発 (薬理学による方法論、酒井教授)</p> <p>8) がんの形態と診断 (病理学による方法論、安井教授)</p> <p>9) 呼吸器癌と遺伝子異常 (病理学による方法論、武島教授)</p> <p>10) ウイルスと感染制御 (ウイルス学による方法論、坂口教授)</p> <p>11) 肝炎の疾病制御 (疫学による方法論、田中教授)</p> <p>12) 医療政策と衛生行政 (公衆衛生学による方法論、烏帽子田教授)</p> <p>13) 薬物中毒と化学物質 (法医学による方法論、長尾教授)</p> <p>14) 免疫疾患と炎症 (免疫学による方法論、菅野教授)</p> <p>15) その他の先端医学方法論</p> <p>本講義では異なった研究アプローチを持つ上記の先端医学の領域の中から履修学生が演習分野を複数選択し、各回は演習領域を専門とする教員がオムニバス形式で担当する。講義の前半は学生による最新の研究論文についてプレゼンテーションを行い、後半は担当教員により当該専門領域の方法論の解説・議論を行う。</p> <p style="text-align: center;">各専門領域で異なる方法論を</p>		
講義日程	別紙参照		
出席の取り扱い	自分が担当の回は欠席しない。担当順は学生間で調整すること。講義は3分の2程度は出席する。		
評価項目	プレゼンテーションの内容と講義中の議論		
評価法	プレゼンテーションの内容と講義への参加態度などを踏まえて総合的に評価する。		
履修上の注意 アドバイス	* プレゼンテーションの準備に際して助言が必要な場合は、各担当教員へ電子メールで要件を事前連絡し、アポイントを取ること。		
推奨参考書	特になし		